



藤谷 謹至 議員  
(拓政会)

**問** 今後増加する高齢者ドライバーの事故防止対策について、以下の点伺う。

- (1) 幕別町の高齢者ドライバーの現状への認識とコミバス半額乗車券の実績から見た、運転免許証の自主返納の状況への認識について。
- (2) 免許証を自主返納した高齢者を含め、地域の足としての地域公共交通の確保について。
- (3) 高齢者ドライバーへの安全運転の啓蒙。民生委員、老人クラブなどとの連携について。

**町長** (1) 町内の65歳以上の運転免許保有者数は5279人、率にして27・6%、十勝管内全体での保有率は25・4%で、若干高い状況にある。コミバスの半額乗車券の交付実績は、平成27年度は1人、28年度は10人、今年度は5月末までに4人の方に交付した。市町村ごとの運転免許証自主返納数が明らかにになっておらず、交付実績から見た自主返納の状況への認識について答えることは難しい。

**問** 今後増加する高齢者ドライバーの事故防止対策は

**答** 関係機関との情報共有を図り、事故防止の啓発を行う

(2) 市街地ではコミバス、農村部では予約型乗り合いタクシーが運行し、通院や買い物など「地域の足」としての役割を果たしている。「まぐバス」は、4月から停留所を2カ所増設し、運行時刻の一部を見直し、利用促進に取り組んでいる。今後も、利用しやすいコミバスを目指し協議を進める。

(3) 幕別町生活安全推進協議会を中心に、女性ドライバー友の会や幕別ロータリー会などと連携し、街頭啓発を実施している。また、幕別自動車学校の協力で冬道交通安全教室を行うなど、高齢者に限らず安全運転の啓蒙活動を行っている。今後関係機関との情報共有を図るとともに、高齢者の集まる機会を活用し、事故防止の啓発や運転に不安のある方には、運転免許証の自主返納の手続きについて周知を行う。

**町長** 全町的な運転免許証自主返納者への支援事業の考えは。



高齢者ドライバーの増加により事故数の増加が懸念されている

**答** 自主返納をどう促すかは一つの課題。他市町村を参考に、対策を組み立てなければならぬ。

**問** 通学路の安全対策は

**答** 関係機関と連携して整備を行い、安全確保に努めている

**町長** 町では「幕別町通学路交通安全プログラム」を策定し、各小学校の危険箇所を洗い出しと対策を行った。今後、迅速な安全対策が必要である。北国の日々変化する冬期間の通学路の状況を点検する必要があると考える。

そこで、以下の点について伺う。

- (1) 通学路交通安全プログラムで明らかになった危険箇所の改善状況と冬期間の通学路点検について。
- (2) 自転車通学の現状と自転車利用者に対する交通安全教育について。
- (3) 自転車と歩行者が安全に通行できる環境整備のあり方について。

**教育長** (1) 未対策箇所4カ所のうち町道の1カ所は、今年度新たに歩道を整備する。残り3カ所は北海道が管理整備を行う道路であり、事業化に向け協議を進めている。冬期間の点検は、関係機関と連携して行っており、見通しの悪い箇所の排雪や拡幅除雪など、安全な通学路の確保に努めている。

(2) 小学校での自転車通学は65人、中学校では508人。交通安全教育は、児童生徒の発達段階に応じた定期的な指導を実施し、交通安全意識の向上に取り組んでいる。

**町長** (3) 通学路としては、69路線、95kmが指定されており、約44kmの区間に歩道が設置されている。車道や歩道と自転車道をそれぞれ物理的に分離することが有効な対策だが、実際の整備には多額の整備費用を要するなど多くの困難な課題がある。